



よしむら じゅんや
吉村 純哉

生年月 1990年1月京都府生まれ
最終学歴 2014年 京都大学大学院
工学研究科修士
業務経歴 2014年 竹中工務店入社
2015年 大阪本店設計部
2016年 大阪本店作業所
2017年 大阪本店設計部
2022年 広島支店設計部
2024年 大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト
2019年 コニカミノルタ高槻新棟
2020年 サントリー天然水
北アルプス信濃の森新工場
PR施設
2021年 茨木市文化・子育て複合施設 おにクルー
2022年 神戸薬科大学A棟
2023年 広島銀行十日市支店

■青年技術者のことば

著しく変化する社会環境の中で、建築主の想いは多岐にわたっている。私は美しい架構をもとにこれらの想いを具現化することを心がけてきた。意匠、設備計画と統合された、合理性の近傍にある構造美が、使い手の方々の安心や幸せにつながることを実感できた喜びは代えがたいものであった。私が日々大切にしていることは、技術論を背景に考えや想いを言葉と画に落とし込みながら思考や対話を深めていくプロセスである。言葉や手段を柔軟かつ適切に選択し、関係者と相互理解を深めることで、密度の高い建築の実現に寄与できたと感じている。

今後も自らの能力や技術の研鑽および関係者との密な意思疎通により、構造設計者が語る想いや技術と建築計画や設備計画を統合していきたい。急速に発達するAIが構造設計を全面的にサポートする時代も遠くはないと思われるが、その結果を翻訳し、人の意思や手をうまく組み合わせることにより、合理性の近傍にある構造美を生み出し、使い手の日々の営みや幸せにつなげたい。

■すいせん者

熊野豪人
（株）竹中工務店 大阪本店設計部
構造第2部門 マネージャー

■建築概要

市の図書館、ホールおよび子育て関連施設などの様々な施設を集約することにより、茨木市中心市街の一体的な成長を目指し計画された（写真1）。芝生広場と連続するフラットスラブ（写真2）とそれらを貫通する「縦の道」（図1、写真3）により構成された大らかな計画が、多様な機能が混ざり合う豊かな空間を創出している。

■構造概要

芝生広場から連続する「立体的な公園」と「安心・安全」の両立を目指し、免震層の上部にフラットスラブとホールのRC壁を組み合わせた（図1、2）。RCが創出する力感や素材感、空間性を大切に、検討を重ねた（図3）。フラットスラブは床輻射空調と組み合わせ、上下面にキャピタルの突出のない美観に優れた仕上がり、屋外のような大らかな内部空間を実現し

た。円柱は、高強度コンクリートにより全てφ600に整え、水平基調の外観を際立たせた（写真2、4）。

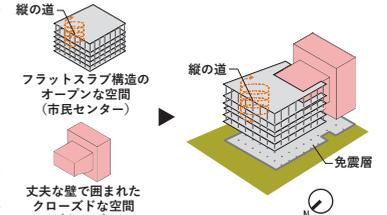


図1 構造ダイアグラム



写真1 北側外観



写真2 フラットスラブと円柱



写真4 5・6階図書館



写真3 縦の道

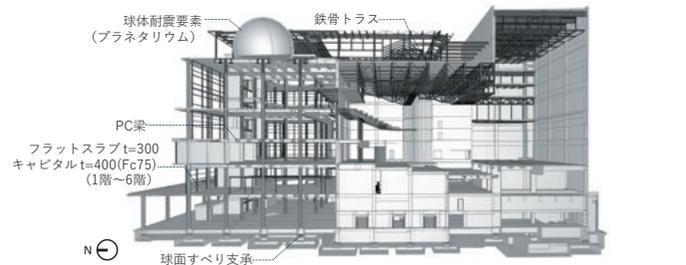


図2 架構概要図

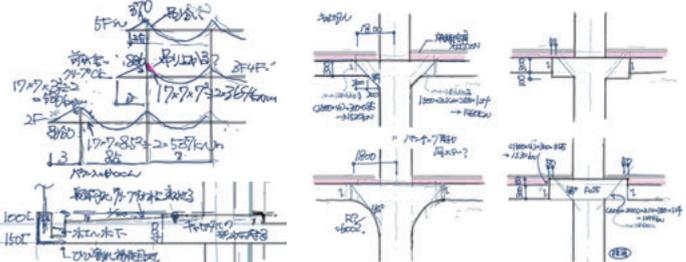


図3 架構計画のスタディ